生誕100年記念

小林秀雄

私は、美術や音楽に関する本を読むことも結構であろうが、それよりも、何も考えずに、沢山見たり聴いたりする事が第一だ、と何時も答えています。極端に言えば、絵や音楽を、解るとか解らないとかいうのが、もう間違っているのです。絵は、眼で見て楽しむものだ。音楽は耳で聴いて感動するものだ。頭で解るとか解らないとか言うべき筋のものではありますまい。先ず、何を措いても、見ることです。聞くことです。

（「美を求める心」1957年より）

美を求める心

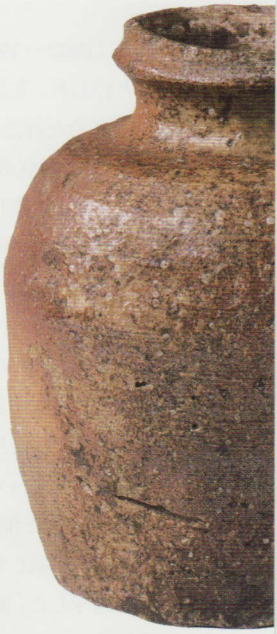
ドガ「踊り子たち、ピンクと緑」吉野石膏株式会社（山形美術館寄託）

2002

10|15㈫

▼

11|24㈰



信楽うづくまる
（小林旧蔵）

主　　催：渋谷区立松濤美術館
　　日本経済新聞社
後　　援：文化庁
協　　賛：鹿島建設株式会社
特別協力：新潮社
協　　力：東レ株式会社
企画協力：株式会社ジパング

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
【休 館 日】10月21日(月)、28日(月)、
　　11月5日(火)、11日(月)、18日(月)
【入 館 料】一般：300(240)円　小中学生：100(80)円
※（　）内は団体10名以上　65歳以上の方及び障害者の方は無料
※ 毎週土曜日は小中学生無料

【講演会】10月27日(日)　午後2時～
「小林秀雄と骨董」青柳恵介（古美術評論家）

ゴッホ「かまどの前に座る農婦」オルセー美術館蔵

渋谷区立松濤美術館

〒150-0046　東京都渋谷区松濤2-14-14　電話 03-3465-9421
JR渋谷駅下車徒歩15分　京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

富岡鉄斎「蝦夷人図」(部分)

中川紀元「小林秀雄」

小林秀雄(1902—1983)は、日本近代評論の確立者といわれ、文芸評論を一つの芸術の領域にまで高めた評論家です。彼はフランス象徴派詩人や志賀直哉の影響下に文学的形成期を送り、東京帝国大学仏文科卒業後の1929年に「様々なる意匠」が雑誌「改造」の懸賞評論第二席に入選。以後、文学・美術・哲学と文芸評論の可能性を広げました。代表作に「無常ということ」「近代絵画」「ゴッホの手紙」「本居宣長」などがあります。彼はまた、青山二郎、河上徹太郎などとの交友を通して、骨董にも関心を寄せていました。本展は、彼の評論の対象となった作家や作品、また彼が愛蔵した骨董などを通して、「小林秀雄の眼」、あるいは彼が追求した「美」そのものを見ていただくものです。彼は「美を求める心」(1957年)の中で『先ず、何を措いても見ることです』と述べています。来て、見て、感じていただきたく思います。

黒田辰秋
「欅彫花文小箱」(小林旧蔵)

奥村土牛「般若寺石仏」(小林旧蔵)

■講演会

10月27日(日) 午後2時〜
「小林秀雄と骨董」青柳恵介(古美術評論家)

■美術相談

10月19日(土) 午後2時〜4時
佐藤善勇(洋画家)、粟田口博(水彩画家)

11月17日(日) 午後2時〜4時
磯村敏之(洋画家)、大和屋巌(水彩画家)

■美術映画会

・10月26日(土) 午後2時〜
「京都の魅力　美のすべて　東寺」
「ダリとシュールレアリズム」

・11月3日(日) 午後2時
「京都の魅力　美のすべて　平等院」
「ピカソの『ゲルニカ』」

■ギャラリートーク

・11月4日(月) 午後2時〜　担当学芸員

ルオー「ピエロの顔」(小林旧蔵)
©ADAGP, Paris & JVACS, Tokyo, 2002

JR渋谷駅下車　徒歩15分
京王井の頭線神泉駅下車　徒歩5分

〒150-0046　渋谷区松濤2-14-14
TEL 03-3465-9421
渋谷区立松濤美術館